

行ってきました日生劇場！ 観てきました「屋根の上のヴァイオリン弾き」！

去る10月28日(水)成人教育委員会主催で行われた観劇に114名(3年33名・2年37名・1年29名 役員&先生15名)もの多くのPTA会員の皆様が参加くださいました。

この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

さて、演目の「屋根の上のヴァイオリン弾き」ですが、安定感のない屋根の上でヴァイオリンを弾く、つまり、安住の地のないユダヤの人々の迫害の歴史を例えているということをご存知でしたか？ しかし、この作品に深く共感しうるのは、むしろユダヤの迫害という背景ではなく、ユダヤの人々の日常を通して、5人の娘の父親テヴィエを中心に、親子、夫婦、隣人の愛など普遍的テーマが取り上げられているからではないでしょうか。



第一幕終了後の休憩時間、参加者の皆さんでにこやかに歓談中・・・

当日は1時半開演に間に合うよう、各自直接劇場に足を運んでいただき、成人教育委員は劇場入り口付近で会員の皆様をお迎えいたしました。

ストーリー

アナテフカ村で酪農を営むテヴィエはお人好しで情にもろく、家族をこよなく愛する恐妻家。敬虔なユダヤ教徒である彼は何かにつけ神様と対話し、厳格に「しきたり」を守ってつましく暮らしていた。彼の5人の娘のうち3人はお年頃。長女ツァイテルは貧乏な仕立て屋モートルと、次女ホーデルは革命を志すパーチックと三女チャヴァは異教徒のロシア青年フォートカと恋に落ちる。父親の望みどおりとはいかず、それぞれの道を歩み始めようとする娘たちに、その幸せを第一に考えるテヴィエは・・・

そんな中、ますますユダヤ人迫害の嵐は激しくなり、ついに生まれ育ったアナテフカを去らねばならぬ日がやってくる。テヴィエ達のあとは、ヴァイオリン弾きがトボトボとついていく。テヴィエの影であり心であった屋根の上のヴァイオリン弾きが・・・



感想

ロシア人によるユダヤ教徒の迫害、追い出しという暗くて辛いシリアスな話なのに、市村さんの時として演じるコミカルな表現力に、観る我々をその重さから救ってくれました。
成人教育委員会顧問 古澤先生

敬虔なユダヤのしきたりの狭間で揺れ動きながらも、結局は娘の幸せを第一に考えるテヴィエの親心に感動しました。

開幕直後に遅れて着席されたお客さんに対する市村さんの声掛けがしゃれていて、これぞライブとちょっとウキウキしてしまいました。

観劇終了後、成人教育委員会メンバーでミニミーティング

生のオーケストラ、数々のミュージカルナンバーに感激！

by Ryu

< 主な登場人物の紹介 >

市村正親 (テヴィエ)

鳳蘭 (ゴールド)

貴城けい (ツァイテル・長女)

本玲奈 (ホーデル・次女)

次女平田愛咲 (チャヴァ・三女)

植本潤 (モートル・仕立て屋)

良知真次 (パーチック・学生)

真島茂樹 (シェイロム・ロシア人)

鶴田忍 (ラザール・肉屋)

廣田高志 (巡查部長)

荒井洸子 (イエンテ)

青山達三 (司祭)

石鍋多加史 (アヴラム)

中山卓也 (フォートカ・学生)